

日本とコリア——互いにもっとも近く、昔から強い縁（えにし）に結ばれてきた両民衆の親善と友好を深めることをめざして活動しています。

そのために、理解の妨げとなるものごとをなくすことを大切にしています。

にっ(ぽん)こり(あ)通信

2022年5月10日/64-3号

発行/日本コリア協会・大阪 大阪市北区錦町2-2 国労大阪会館内

歴史否定で未来志向はあり得ない

韓国のユンソギョル次期大統領が日本に派遣した代表团は、4月24日からの5日間の日程を終え、日韓関係の改善に向けて外交当局間の対話を活発化させた考えを示した。代表团は岸田総理などと会談を行った。政権交代を実現した保守派ユン氏は、選挙で公約した日韓のシャトル外交で、関係修復をできるのか。日本国内では保革間わずさなくない人が修復への期待感を高めている。そう簡単なものか、考えてみたい。

日本政府は今回の代表团の訪問を受け、松野官房長官が会見を通じて、15年の「慰安婦」問題での「日韓合意」は「両政府が多大な外交努力のすえに問題の最終的かつ不可逆的な解決を確認したもの」、「国と国との約束を守ることは国家間の関係の基本」と、この間の主張を繰り返した。このことでわかるように、被害者の立場だった解決や植民地支配への反省、謝罪とはかけ離れた立ち位置に日本政府いる。

5月のコリア問題講座

日韓関係はこうして築かれた

— 岸信介と朴正熙

アメリカの圧力で日韓会談が行われた。その舞台裏で動く岸信介と朴正熙、2人のつながりは「満州国」であった。

植民地支配による請求権を踏みにじり、賠償は経済援助という名で日韓基本条約、日韓請求権協定が結ばれた。

(映像)

5月27日(金) 6時30分〜8時

国労大阪会館・円卓会議室

参加協力費500円(会員・学生無料)

だが、現在の韓国の市民社会は被害者を置き去りにして国家間で解決などということを許すことはない。さらには遡って65年の日韓基本条約の意味を問い直そうとしているのだ。日本の植民地支配の反省、謝罪なし。補償とは無縁の「経済協力」という名で日本の物品と役務によってパクチョンヒは「漢江の奇跡」を起こした。ここに様々な問題が凝縮されている。

「慰安婦」問題の幕引きを許さないデモ

4月26日、岸田首相が韓国次期大統領ユン氏の政策協議代表团と首相官邸にて面会したことで、翌日16時より首相官邸前で緊急スタンディングデモが行われた。デモは「『歴史の否定から未来志向は生まれない』」「日韓合意」による「慰安婦」問題の幕引きを許さない」と題し、戦時性暴力問題連絡協議会が呼びかけたもので日朝協会本部も参加した。

呼びかけ分には、「言葉だけの「日韓関係改善」「未来志向」では、今後さらに被害者と歴史の事実を置き去りにしてし

追したことを謝罪したユン氏。彼が日韓関係を解きほぐすことは極めて困難か。もつれたままの「未来志向」は一層の混乱を招くことは想像に容易い。

韓国の民衆は、欺瞞に満ちた関係修復は許さない。さあ日本の民衆はどう応え、どう運動を展開するべきなのか。まずは負の歴史にしっかりと向き合いたい。

お知らせ

日朝協会全国交流集会

IN京都

日時…6月11日13時〜

12日9時〜

会場…ひと・まち交流館(京

阪・清水五条または地下鉄・五条下車) 会員どなたでも参加できます。参加希望は事務局まで!